

平成29年度 第2回学校協議会議事録概要

日時 平成29年12月18日(月) 15:30~17:10

場所 大阪府立堺工科高等学校 大会議室

1. 開会のあいさつ(校長)

2. 本校の状況

- 平成29年度進路状況について
- 平成30年度使用教科書採択について
- 学校教育自己診断を踏まえた学校経営計画の進捗状況について

3. 協議 (学：学校、委：委員)

委：学校教育自己診断を踏まえ学校経営計画の進捗状況について報告を受けました。概ね順調に進行しているようですが、報告内容について各委員の率直な意見をお伺いしたい。

委：地域貢献については、大仙校区で催された大仙フleurクラブの活動へ生徒会を中心にお手伝いいただいたのは本当にありがたい。

しかし、自転車の登下校時の生徒のマナーが悪いので指導をお願いしたい。

学：自転車のマナーについては近隣の皆様よりご指摘が多く寄せられていますので、引き続き今後も指導を強めていきたい。

委：今年度の学校経営計画は昨年度の結果を踏まえて、目標を設定されているため、明確な達成目標が示されているので進捗状況も良くわかるものとなっています。

その中で、人間力の育成においていじめに関する内容で解消されたとあるが、どのような結果で解消としているのか伺いたい。

学：いじめの解消には、加害者側と被害者側との和解が難しい。担任を始めとする関係職員で経過観察を行い状況の収束を持って解消したと考えている。

委：インターンシップの参加者が少ないようですが、もっとインターンシップに参加して社会体験をもとに進路決定に活かしてほしい。

学：生徒の希望にあった企業へインターンシップさせていただいているが、希望する企業がない場合は新規開拓を行っています。その際には、府の商工労働部を通じて紹介をして頂いている。しかし、多くの場合に希望通りの企業へ参加できていないのも現実である。

委：インターンシップを受入れる企業側としては、生徒がどのような体験をしたいかが、わからないので体験の内容を考えるのに苦労している為を受入れられない企業もあると思う。学校と商工労働部などと体験内容について提案してもらえたら受入れる企業も多くなるのではないのでしょうか。

委：学校教育自己診断結果を分析するためにグラフ化した資料を作成したところ矛盾に感じるころがあった、それについて伺いたい。(委員より資料が配付)

工業教育の充実に関する項目で、生徒と保護者は工業に関する知識が身についていると感じると答えているのに対して、教員は身につけていないと感じているのは、なぜでしょうか。

学：ご指摘の内容は、本校の状況をよく捉えたご質問といえます。遅刻が減るなど生徒の状況はよくなっているが入学してくる生徒の工業に関する関心は下がっている。学校経営計画の中核として工業に関する関心を向上させるためにどうするかを考えて作成している。

委：学校教育自己診断のこの項目については、生徒、保護者と教員間で差があることは、教員の教えたいと思う情熱による差だと感じました。

委：工業教育に対してもっと興味を持ってもらうためにも、入学した生徒への対策を考えるだけでなく、これから入学してくる中学生に工業の魅力を感じてもらうことも重要と感じます。学校の魅力を発信する資源はこの学校にはたくさんありますので、どのように発信するかを検討する必要があります。

4. 閉会の挨拶(校長)

5. 次回の予定

平成30年2月7日(水) 予定